

施設名	あーす保育園鷺ノ宮
施設所在地	中野区鷺宮4-34-9 ライフ・コート鷺宮1F
法人名	SOUキッズケア株式会社

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音
～色々な音に興味を持ち、体験する～

<テーマの設定理由>

毎月リトミック教室があり、音に親しみを持っていた。
遊びや踊りも好きで積極的に取り組む姿が見られたため、音楽に触れられるようにテーマを設定した。

2. 活動スケジュール

7月、8月→氷遊び
9月、10月→豆でマラカスを作る。
11月→自然物を使って音遊び。
12月→お楽しみ会
2月→すくわくコンサート
※毎月、リトミック活動で様々な楽器に触れた。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

【環境の設定】

- ・リトミックの時間にマラカスや鈴を使い音を出すことに興味をもてるようにする。
- ・戸外に行ったときに子どもの見つけた自然物から色々な物を探せるような声掛けをして、材料集めを行えるようにする。
- ・音の聞き分けをする時は周りが騒がしくないような環境で行う。

【準備物】

- ・楽器（トーンチャイムや太鼓など）
- ・マラカス用の豆
- ・自然物（枝やどんぐりなど）

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

【氷遊び】

・氷遊びをする際に事前に凍らせたペットボトルを用意し、カチカチに固まった状態での音を聞く。戸外で氷を溶かし音の変化を楽しんだ。

【自然物を使つての音遊び】

・夏に行った氷遊びの活動から秋の自然物を使った活動に発展した。
・戸外遊びで自然物を集め、それをペットボトルにそれぞれ入れ音の違いを感じた。

【豆でマラカスを作る】

・自然物の中でどんぐりに特に興味を示したので、大きさや重さの違う豆を素材として取り入れた。

・スーパーに買い物へ行き、子どもたちが気になる豆を選んでもらい、買った物をペットボトルに入れ音の変化を聞いた。

・豆の音を元にお楽しみ会で使うマラカスの中身を考える。その中で量も音を聞きながら自分たちで考えた。

【お楽しみ会】

・マラカス作りで一人ひとりの個性を感じることができたので、保護者にも共有したいと思い、お楽しみ会で発表する場を設けた。

・マラカスを使いお楽しみ会で音楽を楽しんだ。
・本物の楽器を購入して、音の違いや演奏方法の違いを楽しんだ。

(トライアングル、ウッドブロック、太鼓、シロフォン、鈴)

・子どもたちの馴染みのある曲でマラカスを使い合奏をした。

【すくわくコンサート】

・CDとかではなく、生の音を直接聞いて欲しかった。
・演奏家の方に来ていただき、本物の音楽を体験した。

【その他】

・リトミックでは曲のイメージに合わせて自由に音を楽しんだ。
・鳥笛を用いて、擬音遊びを楽しむ。散歩の際に本物の鳥の声に耳を傾けた。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

【氷遊び】

・固まっていると音が鳴らず、溶けると音が鳴り変化することに気づいた。
・「お水になったからじゃない？」と子どもから発言あった。

【自然物を使つての音遊び】

・枝や石だけでなく、砂を集める子どもがいた。
・石の大きさによって重さも違うが、音の違いにも気づく。

【マラカス作り】

・重い音がすると「大きい音」、軽い音がすると「小さい音」という認識をしている子どもが多かった。
・中身によって音が変わったことを保育士に伝えたり、友だち同士で「こんな音するね！」などやりとりする姿も見られた。
・友だちが発言した事を確認したく改めて音の聞き比べをしていた。
・買い物に行ったのが楽しかったようで覚えていた子どもも多く、豆を入れるときに
・「これ買いに行ったよね！」と思ひ出話をして楽しむ姿もみられた。

【合奏】

・楽器の音や奏法の違いで子どもの好みが出た。相談しながら楽器を決めた。
・お楽しみ会では保護者に発表することで自信をもって演奏していた。
・お楽しみ会后、演奏しなかった他の楽器を体験した。

【すくわくコンサート】

・見たことのない楽器に触れることができ、どう鳴らすかなど自分たちで考える姿がみられる。
・馴染みのある曲が多かったため、楽しそうに聞いていた。
・自分たちの作った楽器を使い演奏することで嬉しそうな子どもが多かった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・自分の音だけでなく、友達がどんな音をだしているかを聞く力もついた。
- ・友達と一緒に合奏をすることで皆で一つの曲を演奏する楽しさを感じ、一体感を
感じられる経験ができた。
- ・楽器を触ることで物を大切に扱う気持ちを育てる事が出来た。
- ・散歩中聞こえる音や、遊びの中でも音が沢山ある事を子どもたち自身で気づくことが増え、会話
の話題になっている。
- ・リトミックでの集中力が付き、以前より活動に積極的に参加している。
- ・探究活動を通して音に興味を持ち、普段、自分たちが使っている玩具を楽器に見立てて（お皿を
タンバリンなど）歌を歌いながら演奏ごっこを楽しむようになった。
- ・より子どもたちが音に触れられるように環境を用意したり、硬さや大きさ、重さの違う物を用意
し遊びの中で楽しめる環境を作る。